

特集1 研修事業スタート	1
特集2 これまでのセンターの企画行事	2
人と防災未来センター資料室より	3
海外におけるセンター研究員の活動報告	4
さまざまな声が寄せられました	6
DisplayPickup「大震災ホール」	7

特集1

研修事業スタート！

●災害対策専門研修



人と防災未来センターでは、災害に関する実戦的な人材の育成の一環として9月30日から災害対策専門研修をスタートしました。

この研修は、政府関係機関、地方公共団体、公共機関の管理職員等、災害発生時の応急対応の指揮者となりうる者等を対象としたAコース、それに準ずる者及び経験年数が浅い者等を対象とするBコースがあり、Aコースに63人、Bコースに118人が参加しました。

講義内容・カリキュラムについては概ね高い評価で、討論会や災害対応演習は、全国から集まった受講者間で意見交換が可能であることもあり、概ねよい評価を得ました。また、各講師から研修の実施に多大なる理解と協力を得て、充実した講義を実施でき、改めてじっくりと聞きたいという評価もありました。受講者同士の人的交流も活



発化し、「顔」の見える関係への第一歩となつたほか、今後検討すべき課題も明らかになってきました。

センターでは今後も引き続き、人材育成と防災担当者の交流ネットワークの構築に貢献していきます。

●国別特設トルコ災害対策・震災復興研修

災害対策専門研修に先駆け、センターでは国際協力事業団（JICA）からの委託事業として、9月1日から21日までトルコからの研修員を迎えての研修を実施しました。トルコでは1999年に2度の大地震が連続して発生し、現在、その復興に取り組んでおり、研修員の意識は非常に高く、討論も活発に行われました。

センターでは引き続き、11月17日から中米6カ国から研修員を迎えての防災対策研修を実施しました。



センターの展示を視察するトルコの研修員

特集2

これまでのセンターの企画行事

がんばれ、がんばろう友情ギャラリー

4.27-6.16

震災当時、こども達が励ましあい、復興のエネルギーとなつた絵を展示しました。



六甲山の災害展 6/18-6/30



六甲山系での土砂災害の歴史や治山ダムの模型による実験を通じて防災の重要性を展示しました。

夏休みこども防災ワークショップ 8/19-8/21

夏休みの自由研究に役立ち、こども達に防災意識を高めてもらおうと、夏休み後半の3日間、センターの専任研究員と資料室が中心になって、県立舞子高校の生徒さんの協力を得て、それぞれのワークショップを実施しました。



8/19(月)
まちの防災探偵団になろう！



8/20(火)
ペットボトルでかんたん液状化実験



8/21(水)
世界災害調査隊
－HATから見えるアジア－

また、夏休み期間中の土・日曜日には、小中学生を対象とした防災○×クイズも実施し、全問正解者には景品が配られました。ワークショップの詳細な記録は、センターのホームページ (<http://www.dri.ne.jp>) に掲載されています。

家庭防災会議を開こう 9/1-9/29



地震が起きたらどうする？災害伝言ダイアルの使い方は？日頃おろそかになりがちな家庭の防災について考える企画を実施しました。

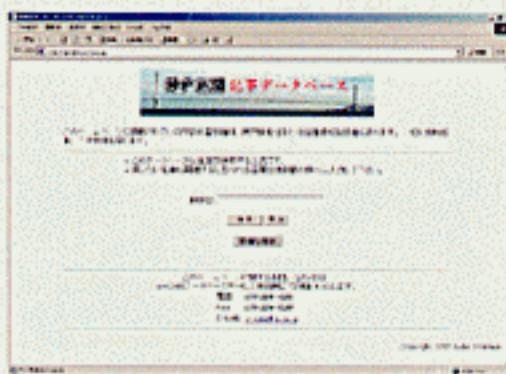
ジャンボひまわりコンテスト写真展 10/1-11/4



被災者の癒しや希望の象徴となったひまわりの背丈や大輪の美しさを競うコンテスト。優勝した高さ5.35mのひまわりの茎も51点の写真とともに展示されました。

調べよう！@資料室

神戸新聞記事 データベース検索



震災以降の神戸新聞の記事をキーワードによって全文検索することができます。

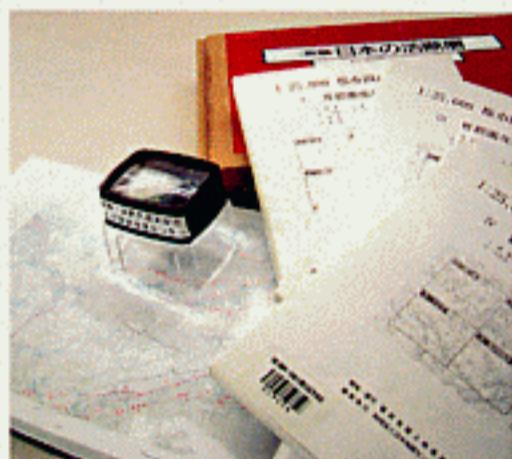
探したい記事に関連すると思われる言葉（例えば、人と防災未来センター、震災モニュメントなど）を入力すると該当する記事の見出し一覧が表示されます。

その中で探している記事を選択すると、本文を読むことができます。

掲載日、地方版名（阪神版、明石版など）、版面名（朝刊社会面、読者面など）の詳しい指定もできます。

活断層地図

あなたの家の近くには活断層があるか知っていますか？
お住まいの地域の活断層を調べていただくことが出来ます。



- 「近畿の活断層」
岡田篤正、東郷正美編
東京大学出版会
- 「新編日本の活断層」
活断層研究会編
東京大学出版会
- 「都市圏活断層図」
建設省国土地理院編
(財)日本地図センター

阪神・淡路大震災 地図情報年間閲覧システム



震災前後（1994年から2001年）の神戸市、芦屋市、西宮市の住宅地図をパソコンの画面上で閲覧することができます。

住所（地名、番地）や、目標物（駅、神社など）を指定して、震災前と最近の地図を比べてみると、震災で被害にあった建物など、街の変化がよくわかります。

企画展示（12月～）



日本ではよく、ナマズが暴れると地震が起こる！と言われますね。そこで、資料室では、日本で言われる地震とナマズの関係や、世界での地震にまつわる言い伝えを壁面に展示しています！小さなお子さんにも分かりやすく、また外国からのお客様にも分かるように、日本語、中国語、英語で解説付きです。

資料室での配布物『資料室ニュース』 を発行しはじめました！



新刊図書や資料の情報だけでなく、災害や防災に関することも簡単に説明しています。
(毎月27日発行)

資料室では他にも、復興誌、街の復興カルテ、「震災資料の分類・公開の基準研究会」報告書、フェニックス兵庫2002を配布しております。但し、数にかぎりがありますので、御了承ください。

〈問い合わせ〉 TEL (078) 262-5058
資料室(2F) FAX (078) 262-5062

開室時間／10:00～18:00
閉室日／毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）
12月29日～1月3日

人と防災未来センターでは、阪神・淡路大震災の経験と教訓を活かし、海外調査も行っています。

イラン北西部地震現地復興状況調査報告

深澤副センター長、越村研究員が、アジア防災センター羽鳥研究員と共に、2002年6月に発生したイラン北西部地震の被災地で災害対応、被災地復興の状況等を調査するとともに、大テヘラン圏において将来発生しうる大都市型地震災害の対応策に関する意見交換等を行った。

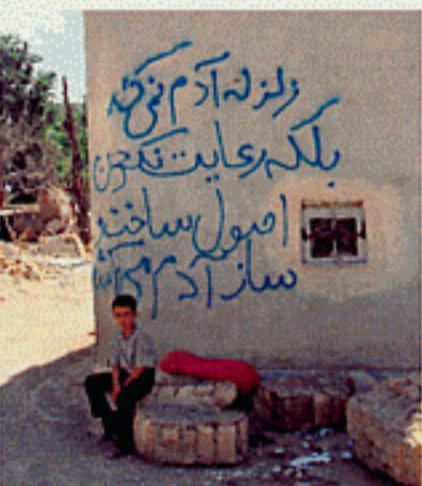
るに宅一
お付近
いに設置
ても設営
生活する
コミュニティ
は維持され
自常生活



一ヶ面に立ち並ぶ村落が一挙に倒壊
した。死者28名。村は移転を計画中。



一公衆浴場の壁に書かれたメッセージ
「地震が人々を殺すのではなく、弱い建物が人々を殺す。」



主要地新一
されたある冬より地
社災地で設営され
ます。後ろには住み
5宅再建。0建
年を降りてテ
前終雪に建
にえるのト
建多は建
必い赤



干造りの干しレンガ
造りに構造の照らして
き形りになつた。
シルの材質とコンクリート
の強度が改めて浮き上



調査日時：2002年7月30日～8月4日
現地調査：カズヴィン州内アバジ地区
ニアラジ地区、ムンソール地区
タブレシキン地区、アブダレー地区
チャングレー地区を訪問・調査。

トルコ復興状況調査報告

福留研究員、越山研究員が1999年8月・11月に発生したトルコ大地震の被災地の状況を調査した。

主な内容としては、現在の仮設住宅の状況・被災地の都市復興状況・復興住宅の供給状況の3点である。

被災地の復興状況について現地の住民にインタビューも行った。



↑アダバザリによる公的供給の復興住宅団地。震災から3年が経過したトルコ被災地では、仮設から公的に建設された復興住宅や自力で再建した住宅への移行期に入っている。公的な機関による復興住宅団地の建設はほぼ終了している。



↑アダバザリにある公的供給の復興住宅団地の全景3～4階建ての集合住宅で広さは約100m²



↑アダバザリにある日本仮設村の風景。仮設住宅は撤去期に入っているものの、スムーズに進んではいない。全体の8割程度の仮設住宅には未だ人が居住している。高齢者で生活に困窮している場合、家族で面倒を見たり、昔近所だった人が面倒を見たりということがふつうであると言わえた。

調査日時：2002年9月5日～19日

現地調査：デールメンテレ、ギョルジュク、アダバザリ、ドゥズジェ、ヤロバ

文部科学省科学研究費補助金・基盤研究A（海外）

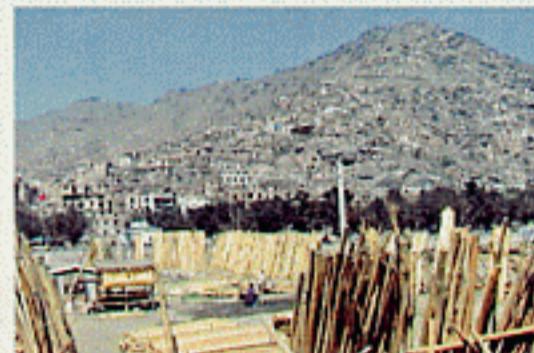
「地震災害からの復旧・復興課程に関する日本・トルコ・台湾の国際比較研究」（研究代表者：中林一樹 東京農業大学教授・人と防災未来センター上級研究員）の調査研究による

「カブール及び全国都市ビジョンに関する国際会議」参加報告 アフガニスタンレポート

深澤副センター長が同会議に参加し、アフガニスタンにおける都市復興のあり方についてわが国の戦災復興や阪神・淡路大震災からの復興の経験を踏まえた提言を行うとともに、市内視察、各所での意見交換等を通じて、完全に破壊された大都市（カブールの人口は現在約230万人）の復興のあり方についてケーススタディーを行い、考察を行った。



†市南西部、進まぬ瓦礫処理

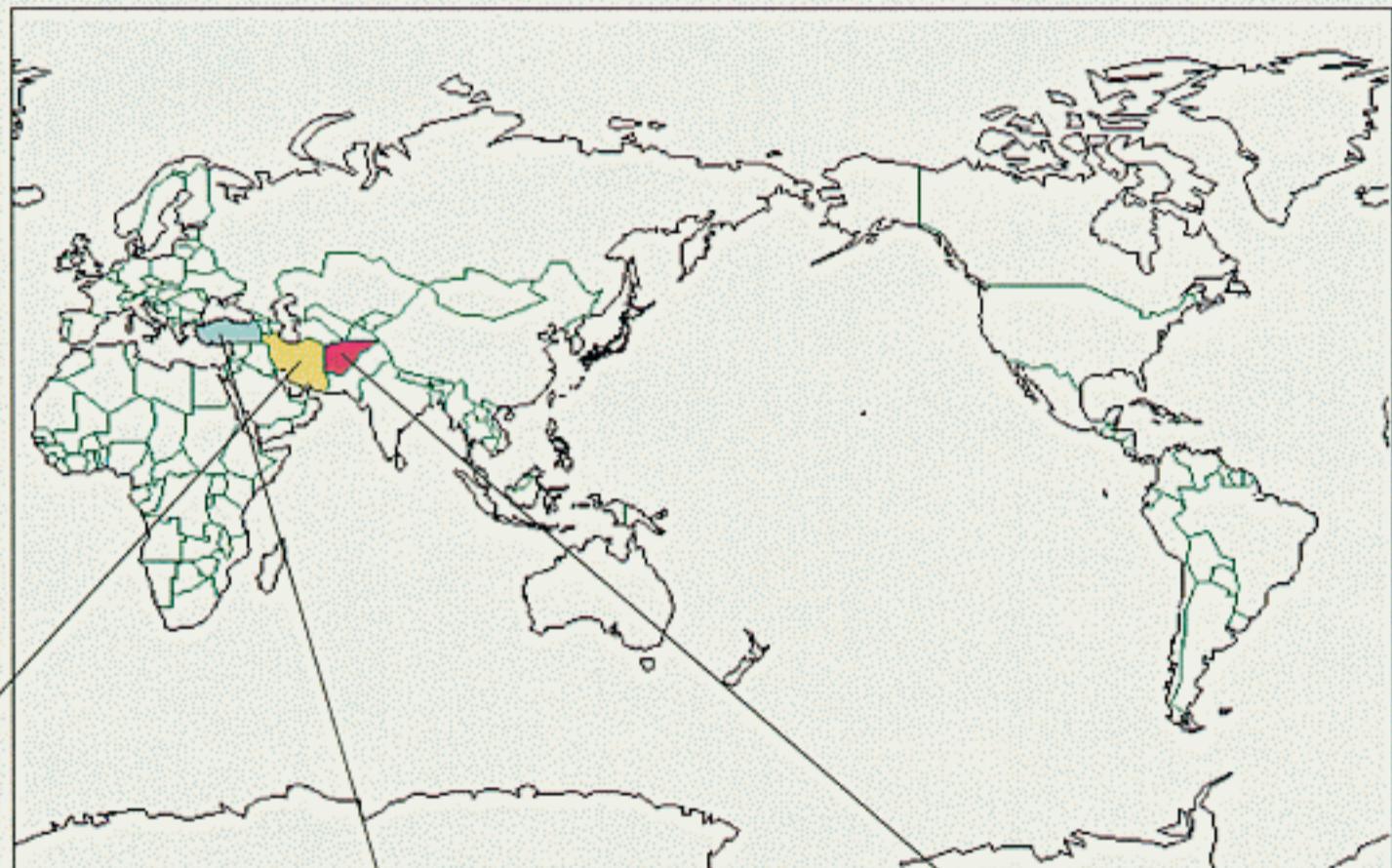


†ボラ材の集積地（建築の足場や梁に使用）



†干しレンガの製造（典型的な建築材料）

調査日時：2002年9月22日～24日
現地調査：カブール市



イラン・
イスラム共和国

- 面積
1,648,195km²
(日本の約4.4倍)
- 人口
6,390万人
(2002.6現在)
- 首都
テヘラン



トルコ共和国

- 面積
814,578km²
(日本の約2.1倍)
- 人口
6,800万人
(2002.11現在)
- 首都
アンカラ



アフガニスタン

- 面積
652,225km²
(日本の約1.7倍)
- 人口
2,510万人
(2002.9現在)
- 首都
カブール



■来館者からの

1.17シアター・大震災ホールの感想を中心におつめました。

1.17シアター

●私は初めて自分の目で地震のおそろしさをまのあたりにしました。今まで自分が思っていた以上にとてもおそろしいものでした。もし自分が、というときはどうなのかと初めて真面目に考えました。(17歳女性)

●スクリーンの映像が本当に怖くて震えてしまいました。あの揺れを神戸の人は体験したなんて信じられませんでした。大きな地震を体験したことのない私は、大震災を人事のように思っていましたが、今日、ここへ来て地震の恐ろしさを本当に考えました。家に帰ったら少しずつ地震対策をしようと思います。(15歳女性)

●震災の瞬間なんて今までまじめに考えたことがありませんでした。でも、ビデオなどを見て、もしその場に自分がいたらと考えると、とても恐くて何もできない自分がみえたような気がした。生きる大切さを知った。(17歳女性)

●わたしはあんまし、じしんのことはおぼえていません。1.17シアターでこんなことがあったのかとびっくりしました。しんさい直後のまちをみたとき、そんなにすごかったの?と思いました。3才だったのであまりわかりませんでした。お母さん、お父さんにかんしゃしてます。(10歳女性)

●修学旅行でこのセンターに来たけれど、迫力のある映像を見て、想像以上に悲しいことだなと思いました。ぼくはそのできごとを決して忘れない。(12歳男性)

●1.17シアターを見ている時、あの頃のゆれや街の様子がフラッシュバックのように思い出し、足や全身が震えた。実際に経験した事でも、やっぱり恐い記憶は忘れようとしてしまうもの。忘れないで語りついでいくことがとても大切だと思いました。本当に生きていてよかったです。(19歳女性)

大震災ホール

●困難を乗り越える「人の強さ」。私は、人の強さを学びました。たくましく、そして優しく!

●すごく感動しました。地震のコワさを知りました。精いっぱい生きようと思いました。どうもありがとうございました。(16歳女性)

●地震がこんなに恐ろしいというものだと私は思いました。本当の犠牲者の気持ちは私達にはきっとわかったようで、わからないと思うけど、すごい心にぐぐっときました。感動です。(16歳女性)

●すききらいをなくそうとおもいました。(8歳女性)

●とってもじしんはこわいんだなあってことがわかりました。みんなにもすごいとは思っていなかったので、もし自分のすんでいる町にあんなじしんがきたら、ビデオを見た中のボランティアをしたいです。(9歳女性)

●じしんの事はあまりしらなかったけど、4階のシアターや震災直後のまちをみたりしたら、こんなにじしんがこわいのかということがよくわかりました。それと、人ととのたすけあいっていうのは、ほんとに大事だなと思いました。(11歳女性)

●震災時の自然の破壊力のすさまじさに改めて驚くと同時に、その後の人々の助け合いの美しさ、復興の力強さに感動しました。人間の力の素晴らしさには胸が熱くなります。自然の力とともに人間の力の大きさも、この大震災は教えてくれたと思います。(50歳男性)

●地震にあった人の気持ちがよく分かった。かわいそうとか、そういうじげんではなかった。でも、元にもどってよかった。(14歳男性)



Display Pick Up
3

大震災ホール

大震災ホールに多国語音声ガイドシステムが導入されました（英語・中国語・韓国語）。これにより、海外の方にも、より詳細な内容を理解していただくことができます。そこで各言語訳をしていただいた3方に、震災に関する体験や印象、大震災ホールの映像を見てどのように感じたか、また翻訳に際して注意された点をインタビューしました。

ストーリー：地震発生から現在に至るまでの、復旧・復興過程のドキュメント映像。報道映像資料を編集し、ドキュメンタリーなものにしつつも、ナレーションに1人称を用い、震災当時15歳の女性の目を通して多くの被災者が感じたであろう気持ち、辛かったこと、悲しかったことを思い出しながら、それを乗り越え立ち直ろうとする気持ち、葛藤、そして生きていく決意を語っていく。（上映時間 約13分 収容人数 150人）

震災が起きたとき、東京に住んでいた私は、テレビで初めて震災を知りました。画面に映し出された映像を見てもすぐには信じられず、しばらくテレビの前から動けなかったのを覚えています。あれから7年。2年前から神戸の住人となった私にとって、震災は「触れてはならない話題」から「人間にとて何が最も大切な教えてくれたもの」へと変わりました。私が育ったロサンゼルスも、大地震による被害を受けていますが、世界中のどこであろうと、人の命の尊さは同じです。過去の経験を伝えることで少しでも被害を防げたら…。そんな思いで、今回、英語音声ガイドシステムの訳とナレーションを手がけましたが、「大震災ホール」の映像を見て、その思いはさらに強いものになりました。



英語担当
田中まこさん

神戸に来て、人間って強いなと感じた。



中国語担当
FMCO・CO・LO
プログラムスタッフ
孔 怡さん

「生きててよかった」
が挨拶、状況の大変さ
を悟った。

震災一週間後、テレビ番組の取材で神戸の南京町と中華同文学校を訪問しました。「生きとてよかったね。」というような地元の方の会話が、あちこちでなされていたのが印象に残っています。状況の大変さを実感しましたね。取材先の中華同文学校には、外国の方が沢山避難していました。中には全く日本語を理解出来ない方もいらっしゃったんですが、そういった方に対する非常時の情報が不足していると感じましたね。困った時の行動って、どの国の人も共通なのではないかと思います。なので、ナレーションの際には、主人公のように困った状況に自分がいると考えてみて、気持ちがストレートに出る言葉を選びました。

韓国語担当
FMCO・CO・LO
プログラムスタッフ
金 水静さん

韓国でも高まってきた
防災意識。その大切さ
を伝えたい。



震災にあって真っ先に頭に浮かんだのが、「離散家族にならどうしよう」ということでした。というのは、そのときちょうど子供がよそへ泊まりに行っていたので。地震そのものが初めてで、それまでは危機感も無かったです。震災の後には、日頃の防災意識の大切さを感じるようになりました。韓国でもその頃から、震度3くらいの地震が少しずつ増えてきていて、それと共に防災意識が高まりつつあります。今回ナレーションするにあたっては、以前の私のように地震などに危機感を持たない人たちへ、防災意識の大切さと、万が一災害にあってしまっても、主人公のようにその体験を乗り越えて生きていけるんだということを伝えたいと思いました。

国際防災・人道支援協議会発足

神戸東部新都心を中心に立地している関係機関が有機的な連携を図り、国際的な防災・人道支援活動に資する取り組みを共同して推進することにより、それぞれの機関がその機能をより効果的に發揮し、もって国際的な防災・人道支援活動に貢献することを目的として、「国際防災・人道支援協議会」が設立されることとなり、10月10日(木)に、人と防災未来センターにおいて設立会議が開催されました。

設立会議には、参加機関の代表者が出席し、会長として、この協議会の設立を呼びかけた河田恵昭・人と防災未来センター長が選任されました。



国際防災・人道支援協議会
シンボルマーク

参加機関／アジア太平洋地震変動研究ネットワークセンター、
アジア防災センター、国際エメックスセンター、国際協力事業団兵庫国際センター、国際連合人道問題調整事務所神戸オフィス、国際連合地域開発センター防災計画兵庫事務所、
地震防災フロンティア研究センター、世界保健機関健康開発総合研究センター、地球環境戦略研究機関関西研究センター、
阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター

街の復興カルテ（デジタル版）

阪神・淡路大震災からの復興状況をまとめた「街の復興カルテ」のデジタル版をセンターで閲覧できるようになりました。

内容は、調査対象地区の一覧とそれぞれの地区概要、各地区の被災状況一覧と被災の詳細、被災後の人団・世帯数などの推移、地区の建物再建過程、各地域ごとに設定した被災や再建など復興にかかわる研究テーマの調査結果および成果となっております。

「街の復興カルテ」は2階資料室（無料）及び3階の「震災から学ぶ」コーナーでご覧いただけます。（資料室では印刷版の配布もしています）

「家庭防災会議を開こう！」より①

...column

阪神・淡路大震災では、家屋の倒壊により多くの尊い命が失われました。このような犠牲者を出さないために、専門家による住宅の耐震診断を受け、地震に備えましょう。



MIRAI

[人と防災未来センターニュース] Vol.3

発行／阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

お問い合わせ先



阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター

神戸市中央区鷹浜海岸通1-5-2 ☎ 651-0073
事務局／TEL.(078)262-5060
観覧案内／TEL.(078)262-5050
ホームページアドレス／<http://www.dri.ne.jp/>

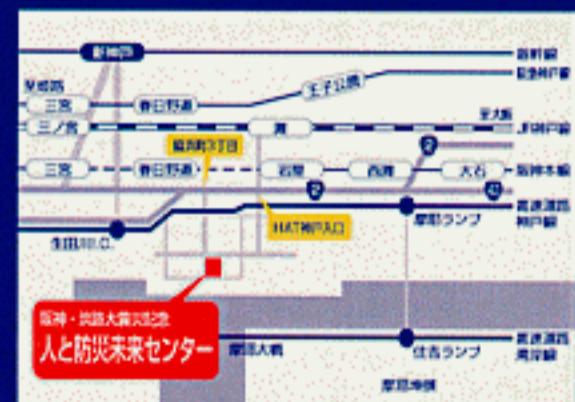
●開館時間 10:00～18:00(入館は17:00まで)
※金・土曜日は20:00まで
(入館は19:00まで)

●休館日 月曜日
※日曜日が祝日の場合は翌日。
12月31日、1月1日は休館。
※ゴールデンウィーク、
夏休みの期間中は無休。

●入館料金

区分	個人	団体(20名以上)
大人	500円	400円
高校・大学生	400円	320円
小・中学生	250円	200円

交通マップ



■交通 鉄道／阪神「岩屋駅」から徒歩約8分、
JR「灘駅」南口から徒歩約10分。
阪急「王子公園駅」西口から徒歩約15分。
バス／JR・阪神・阪急・神戸市営地下鉄「三宮駅」
から約15分。
神戸市営バス
三宮駅前から約1時間間隔で運転、
阪神電鉄バス
三宮駅前から約30分間隔で運転。
車／阪神高速神戸線「生田川ランプ」から約3分、
阪神高速神戸線「摩耶ランプ」から約4分、
阪急・阪神・JR「三宮駅」から約10分。

■駐車場 有料駐車場(普通車100台駐車可能)このほか
近隣にも駐車場があります。